

学校法人 菊武学園

菊華高等学校

令和七年度 入学生選抜試験問題

国語

〈試験の注意〉

- 試験開始の合図があるまで開けないでください。
- 監督の先生の指示に従って、受験番号と氏名を記入、マークしてください。
- 試験時間は、四十分です。
- 解答は、すべて解答用紙にマークしてください。
- 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないようにしてください。
- 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。
- 破れた場合は交換しますので、申し出てください。
- 丁寧にマークをしてください。乱雑な場合、0点になります。
- 解答用紙の余白に書き込みをしてはいけません。

〈マークシート記入の注意〉

番号を記入	受験番号								
番号をマーク	<table><tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>	0	0	0	0	1	1	1	1
0	0	0	0						
1	1	1	1						

ふりがな	
氏名	

氏名とふりがなを記入

受験番号						氏名	
------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----	----------------------

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大切な会合でゼツタイ^㉗に遅れてはならないときがある。そんなときは早くから準備しておくとか、相当早めに家を出るとかしなくてはならない。遅れてはならないと前日から気にしているくらいなのに、電話で話し込んでいるうちに、ふと忘れてしまったり、何かほかのことに気をとられて、「しまった」と思う。

遅れて行つて何か言い訳しなくてはならない。ふと忘れていまして、などとは、とうてい言えない。

①、大切な集まりでぜひ出席しなくてはならないのだが、人言えぬ理由で出席できないときがある。だれにも人に言えない理由というのはあるものだ。ほかに会合があるなど言えば、お前はこの集まりよりほかに大切なことがあるのか、と言われそうである。ともかく、言い訳とか口実とかいうものは難しい。そんなことにならないように気をつける、というのが道理と思うが、なかなか人間の生活はリクツどおりいかない。

自分のことはともかく、こんなときの他人の方法を観察していると、なかなか面白い。その人の性格がそこにもろに示されるように思うときがある。ある知人が大切な会合に遅れてきて、「すみません遅れまして。何でもかしらんけど遅れました。すみません」と言ったことがある。何だか人を食った挨拶とも言えるが、そのときは待たされた者は一同、何ともさわやかな気がしたから不思議なものである。こんなのは、その人の人間の在り方と関連しているものだから、うっかりまねはしない方がいいようである。^㉘ *TPOすべてを心得て発言しなくてはならない。

最近、平安時代の物語を読んでいるが、そのなかで「夢」が口実として使われているのがちょいちょいあって、面白く思った。当時は、夢を大切

に思う人が多く、夢のお告げに従って行動したり、夢占いを職業とする人があったりするほどであった。そのようななかで、夢が口実に使われる。

たとえば、『源氏物語』^㉙で、源氏が紫の上の幼い姿をはじめて見たとき、その姿に心を惹きつけられるが、なにしろ相手はあまりに幼くて、話をどうもっていいかわからない。紫の上の^㉚後見役の僧に会うと、僧は有名な源氏が来たので嬉しくて仕方がない。早速にこの世はいかに無常であるかと説教をはじめめる。源氏は拝聴のふりをしているが、気が気でならなかったらう。話のときれるのを待って、「ここに住んでいるあの方はどなたですか。常日ごろ見る夢でわけのわからぬがありましたか、あの方を見るとはたと思い当たることがありまして」という。僧は笑いながら「いや、これは出しぬけな夢の話で」と言う。しかし、結局のところ話はすんで、源氏は幼い紫の上の後見人となって、彼女を引き取ることになる。

僧はもちろん、夢が口実と知っている。^㉛、それが嘘か真か^㉜などと言わず、笑いのなかに自分の気持ちを表現しながら、話を円滑にすすめている。

『とりかへばや物語』のなかでは、主人公が急に思い立って吉野の山奥に行くところがある。そのときも「夢見が悪かった」というのが口実に使われる。それを聞いた人が信じるか信じないかはあまり問題ではない。ともかく、そのような口実によって事がもつれたりすることはない。

㉜ のためにうっかり ^㉝ を言い、この ^㉞ を守るために ^㉟ を重ねたりしているうちに、取り返しがつかなくなった、という経験をされた人はないだろうか。ともかく、現代は表向きは「嘘は悪い」ことになっているので、なかなか生きていくのが難しいのである。と言っても見えずいた嘘ばかり平気で言っていると、だんだん信用を失うこ

とも事実である。

平安時代には方違え^{かたが}などという考えもあった。悪い方角に直接行くのをサ^⑧けるためにまったく異なる場所に立ち寄ったり、寄留したりする。これも上手に口実に使われているのだ。この時代の人は、夢も方違えも信じている。信じていながら上手に口実に使うことによって、人間関係を円滑にする知恵をそなえていたと思われる。なかなか大したものだ。

私も「サボりたい」会合などに、夢見が悪かったとか、そちらは方角が悪いなどと言って休みたいと思うが、まだしてみたことはない。現代は現代らしい口実を見つけるより仕方がない。

(河合隼雄「河合隼雄の幸福論」より)

TPO: 時 (time) ・ 所 (place) ・ 場合 (occasion)

後見役…うしろだてとして助ける役

問一 傍線部⑦・⑧・⑨の漢字について、相当する漢字を含むものを選択肢から一つ選びなさい。

肢から一つ選びなさい。

(1) ゼツタイ^⑦

- ① 酸素はキタイの一種だ。
- ② 会議の途中でタイセキする。
- ③ 船でタイガンに渡る。
- ④ タイリクは厚い氷におおわれていた。
- ⑤ 夕方のジカントイが一番混雑する。

(2) リクツ^⑤

- ① ヒヤクリの道も一步から。
- ② 高いリソクで金を借りる。
- ③ 友人とのベツリを悲しんだ。
- ④ 家庭科でチョウリ実習をする。
- ⑤ 昔は天皇の住居をダイリといった。

(3) サける^⑧

- ① 学校でヒナン訓練があった。
- ② 一次試験がメンジヨされた。
- ③ 事件が一つカイケツした。
- ④ 残された土地をブンカツした。
- ⑤ 水道管がハレツした。

問二

①に入る語として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (4) ① しかし ② まさか ③ さて
- ④ ところが ⑤ あるいは

問三 傍線部㉔「言い訳とか口実とかいうものは難しい」とあるが、なぜ難しいのか。理由として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

(5) ① 忘れていたとか別の用事があると正直に言うのと、かえって相手に不愉快な思いをさせるから。

② 言い訳や口実はその場で簡単に思いつくものではなく、じっくりと考える時間が必要になってくるから。

③ 日々仕事に追われる中で、自分がした失敗の言い訳や口実を考える時間はほとんどないから。

④ 言い訳や口実は相手によって言い方を変えなければいけない。上手な言い方ができるようになるまでにはかなりの経験が必要だから。

⑤ 大切な会合を忘れないようにするためには普段から気をつけなければいけないが、苦手な人にとってこれは難しいことだから。

問四 傍線部㉕「人を食った挨拶」の「人を食う」の意味として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

(6) ① 人を驚かせる

② 人を感動させる

③ 人をばかにする

④ 人を心配させる

⑤ 人をおとしいれる

問五 傍線部㉖「うっかりまねはしない方がいいようである」とあるが、その理由として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

(7) ① 言い訳のうまい人は頭がよいので、同じようにまねをしても失敗するだけだから。

② 言うことは同じでも、発言する人と聞く人の人間関係によってとらえ方が違ってくるから。

③ 遅刻の理由は会合の規模によって使い分けるもので、経験が必要だから。

④ 現代は「すみません」という言葉に謝罪の意味はほとんどないから。

⑤ 待たされた人は遅刻の理由より謝罪の態度をよく観察するものだから。

問六 傍線部㉗『源氏物語』の作者として適切なものを選択肢から一つ選びなさい。

(8) ① 紀貫之

② 和泉式部

③ 清少納言

④ 紫式部

⑤ 小野小町

問七 傍線部㉔「気が気でならなかったろう」とあるが、この時の源氏の気持ちとして適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (9) ① 僧の説教よりも幼い紫の上のことが気になってしかたがない。
② 僧の説教は難解で、自分の無学が相手に分かってしまうのではないかと不安になる。
③ ここに幼い紫の上がやって来たら、何の話をしたらよいか悩んでいる。
④ 忙しい源氏には僧の説教を聞く余裕はない。どうやって話をやめさせるか考えている。
⑤ 時間がたつにつれて僧の話に引き込まれていく自分が怖くなる。

問八 に入る語として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (10) ① すなわち ② ただし ③ たとえば
④ しかし ⑤ さて

問九 傍線部㉕「夢見が悪かった」の意味として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (11) ① 寝ている時の姿勢が悪かった
② 夢を見て何度も目が覚めた
③ 夢に出て来た人物が悪人だった
④ 病気になる夢をみた
⑤ 悪い夢を見て気分がよくなかった

問十 にあてはまる語の組み合わせとして適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (12) ① サ 口実 シ 嘘 ス 口実 セ 嘘
② サ 口実 シ 嘘 ス 嘘 セ 嘘
③ サ 口実 シ 口実 ス 嘘 セ 嘘
④ サ 嘘 シ 口実 ス 口実 セ 口実
⑤ サ 嘘 シ 口実 ス 嘘 セ 口実

問十一 傍線部㉖「なかなか生きていくのが難しい」とあるがなぜか、理由として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (13) ① 夢に対するイメージが昔と今で正反対になってしまったから。
② 昔から嘘は悪とされてきたので、嘘をつく信用されなくなってしまうから。
③ 昔と違い今は嘘は悪とされており、嘘を口実に使うことができなくなってきたから。
④ 今の世の中は、一度嘘をつく信用を取り戻すのに大変な労力が必要とされるから。
⑤ 嘘は悪という考え方が現代の情報化社会に通用するかまだ不明だから。

問十二 傍線部㊦「人間関係を円滑にする知恵をそなえていた」とあるが、

これはどういうことか。適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (14) ① 昔の人々は夢や方違えを嘘ではないと理解していたので、大きな問題にならなかった。

② 昔の人々は口実の内容を夢と方違えの二つに限定していたので、混乱することはなかった。

③ 夢や方違えは信仰の一種だったので、誰もはっきりと嘘だと言えなかった。

④ 夢や方違えは明らかな嘘と違い、口実として使われるということをお互いが理解していた。

⑤ 昔の人々は夢や方違えを当然のこととして信じており、これが一種の連帯感を生むことになった。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あらすじ

僕（青山霜介）はふとしたことから水墨画の巨匠篠田湖山の弟子となり、画の練習を熱心に続けていた。ある日、練習の成果を見てもらおうと先生の自宅に伺う。先生は僕の前で竹と梅を描いた後、家の庭に出てみようと言う。

「では現物を見に行こう」

湖山先生は立ち上がり、僕もそれに続いた。相変わらず軽い足取りで、湖山先生は中庭に向かってスタスタと歩いていった。

サンダルを履いて初めて歩いた中庭は予想以上に広かった。西濱^{にしはま}さんが手入れをしているところを見たことはあるが、実際に降りて歩いたことは一度もない。湖山先生はどうやらかなり機嫌がいいらしく、ときどきふいに立ち止まり、なんでもない景色を数秒眺めてはまた歩き出す、ということを繰り返していた。庭の垣根の近くにある鉢に入った竹の前に立つと、こちらを振り返り、

「こういうのはどうだろう？」

と、嬉しそうに訊ねた。人の背丈とあまり変わらない細身の竹にいくつもの笹が付いていた。これまではそこにあって漫然と通り過ぎていただけのただの笹竹も、湖山先生と並んで見るとやたらと立派な美術品のように見えた。僕は実物の竹を見ながら、水墨で描かれるお手本を透かしてその場所に見ていた。たぶん湖山先生もそれを聞いたかったのだろう。僕は、「複雑ですね」

と答えた。湖山先生はうなずいた。

「そのとおりだ。実際の竹は、描かれた竹ではない。多くのものは目に入り、それを楽しませてくれるが、それを人の手がすべて描くことはできない

い。あっちを見てごらん？ あちらはどうだろう」

湖山先生が指さした方向の先には、たくさん葉を茂らせた大きな木があった。幹は曲がりくねりごつごつとしていて、うっすらと苔が生えている。間違いなく湖山先生が指さしているのは梅の樹だ。こちらもありにも多くの葉や枝があり、何処をどう切り取っても、まとまりが生まれない。「あれも難しそうですね。とてもじゃないけれど僕は描けない」

「そうだね。きっと私も描けない」

僕は驚いて湖山先生を見たが、湖山先生は笑ってから、うなずいてゆっくりと歩き出した。僕はその後ろを並ぶことなく付いていった。

「墨と筆を用いて、その肥瘦^{ひそう}、潤渴^{じゅんかつ}、濃淡^{のうたん}、階調^{かいてう}を使って森羅万象を描き出すのが水墨画だが、水墨画にはその用具の限界ゆえに描けないものもたくさんある。絵画であるにも拘^{かか}わらず、着彩^{しきさい}を徹底して

① いることからも、そもそも我々の外側にある現象を描く絵画でないことはよく分かる。我々の手は現象を追うには遅すぎるんだ」

「遅すぎる、ですか」

湖山先生と僕は縁側^{えんがわ}に腰かけた。天気がよく風も心地よい。穏やかな日に庭を前にして座るなんて、なんてことのないことだけれど、そんな、なんてことのない幸福を味わえる人なんてこの世界にどれだけいるのだろうか、と思ったりもした。けれども今日は、僕らの番だ。湖山先生の声は、そんな穏やかな目に似つかわしく、とても優しい。

「いまは家の中に蛍光灯もあり、光は停止しているけれど、こうして、庭に出て物の形を眺めていると気づかない間に、物の影や形は少しずつ変わっていったのが分かる。現象を追いつ、描き始めて、物の形を追いつ、彩^{いろどり}を追いつ、すべてを仕上げて、終わったときには、またすべてが変わっている。光は止まることなく動き続けているんだよ。水墨画という絵画が確立する過程で、きっと昔の人たちはそのことに気が付いたんだと私

は思うよ」

「光は止まらない……時間が動き続けるということですか」

「そういうことだ。動き続け、刻々と変わり、姿を変え、形を変え、また現れる。それが自然というものだ。それを描くにはどうしたらいいのか、昔の人たちは考えたんだ」

「どうすればいいんですか？」

湖山先生は笑った。それからとても懐かしいものを見るように、僕を見た。

「今日、私は竹を教え、梅を教えた。今の君ならこの二つを簡単にものにしてしまうだろう。類いまれな観察眼と情熱を持つ君なら、この二つのお手本を自分一人でも習得してしまえるはずだ。君はたった一枚の絵からほかの人が学び取ることよりも、はるかに多くを感じ、たいせつなことにあつという間に気づいていく。だからこそ、私は君には気づいてほしいと思うことがある」

湖山先生は立ち上がり、数歩先にある小さな菊に手を伸ばした。何気なく咲いていた菊だった。

「青山君、これが君の先生だ」

湖山先生は僕に菊を手渡した。

「この菊に教えを請い、描いてみなさい。これは初心者の卒業画題であり、[※]花卉画の根幹をなす技法がここに収められている。私には伝えられないものがここにある」

背丈の低い白い菊は蕾と大きな花卉を付けていた。葉は色濃く強い。手渡された瞬間から、僕はこれをどう描くのかを考えていた。

「いいかい、青山君。絵は絵空事だよ」

僕は視線をあげて、湖山先生を見た。湖山先生の目は笑ってはいなかった。

（砥上裕將「線は、僕を描く」より）

西濱さん……湖山先生の弟子の一人。

花卉画……植物を描いた絵。

問一 傍線部⑦「漫然と」の意味として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

(15) ① はっきりした目的もなくする様子

② 楽しくて自然に笑顔になる様子

③ 思いやりのない様子

④ 痛みや苦しさをぐっとこらえる様子

⑤ まったく相手にしない様子

問二 傍線部④「実際の竹は、描かれた竹ではない」とあるが、これはどういうことか。説明として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

(16) ① 水墨画で竹はよく描かれる対象だが、これを正確に描写できる人はいない。

② 水墨画で描く竹は自然に生える勢いのあるものがよく、鉢に植えたものは対象外である。

③ 水墨画は描く人の感情がはっきりと表れるので、完成したものは実物とは違ってくる。

④ 水墨画は本来短時間で描きあげるもので、実物を正確に写し取ることは不可能である。

⑤ 水墨画は複雑な対象を簡略化して描くものなので、実物とはかなり違ってくる。

問三 傍線部㉔「森羅万象」の意味として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (17) ① 緑豊かな森林にはさまざまな生物が生きている。
② 時間の流れは人の力ではどうすることもできない。
③ 道に迷って困り果てる様子。
④ 宇宙の間に存在するすべての物事。
⑤ さまざまな出来事を一つにまとめて記録する。

問四 ㉕に入る語として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (18) ① 用いて ② 排して ③ 管理して
④ 取り入れて ⑤ 保護して

問五 傍線部㉖「我々の手は現象を追うには遅すぎるんだ」という「湖山先生」の言葉を次のようにまとめた。㉗にあてはまる語句の組み合わせとして適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

我々は絵を描くために㉗をじっくりと観察し、本質をとらえようとする。しかしその間も時間は流れ、光や影、形は㉘と変化する。この変わりゆく姿を水墨画で表現するには㉙がある。

- (19) ① 庭・刻々・過程 ② 光・自然・限界
③ 現象・刻々・限界 ④ 光・刻々・時間
⑤ 現象・自然・過程

問六 傍線部㉚「類いまれな」の意味として適当なものを選択肢から一つ選びなさい。

- (20) ① 種類が豊富である。 ② 種類がきわめて限られる。
③ 仲間同士で励ましあう。 ④ 似たものが集まること。
⑤ めったにないほど素晴らしい。

問七 次の①～④の会話は、この文章を読んで気づいたことを生徒が話し合ったものである。内容が本文に適さないものを選択肢から一つ選びなさい。

- (21) ① 生徒A 湖山先生は「いまは家の中に蛍光灯があり、光は停止している」と言っています。反対に自然の光はものを照らすだけでなく、時間とともに明るさや色を変える「動き続ける光」ととらえることができます。

② 生徒B 梅の花は湖山先生が得意とする画題の一つで「僕」にも今から練習をしてよい画を描けるようにと、二人で歩いている間、梅の魅力について熱心に語っています。

③ 生徒C 湖山先生が「僕」に菊の花を手渡して「菊に教えを請い、描いてみなさい」と言いました。これは菊をよく観察することと今まで見えなかったものを発見して、これを描くようにという「僕」へのメッセージだと思います。

④ 生徒D 湖山先生が最後に「絵は絵空事だよ」と言う場面がありますが、「絵空事」とは現実にはない作りごとのことです。先生は少し皮肉をこめて、それでも制約の多い水墨画で思い切って自分を表現してほしいと願っているようです。

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある人、円宗寺の八講と云ふ事に参りたりけるに、時待つ程やや
寺の法要 少し

久しかりければ、其のあたり近き人の家を借りて、且く立ち入りた
しばらく
長くなってしまったので

りけるが、かくて其の家を見れば、作れる家のいと広くあらぬ庭、

前栽を、⑦えも云はず木ども植ゑて、上に仮屋のかまへをしつつ、聊か水
植え込みに何とも言えず立派な 小屋をこしらえ

をかけたたりけり。色々の花、数を尽して、錦を打ちおほへるが如く見えた

まるで錦を広げかぶせたように

り。殊にさまざまなる蝶、いくらともなく遊びあへり。

事ざまのありがたく覚えて、①わざとあるじを呼び出でて、此の事を問へ
この様子が わざわざ

り。あるじの云ふ様「是はなほざりの事にもあらず。②思ふ心ありて植ゑ
どうでもよいことではありません

て侍り。おのれは、すげくに佐国と申して人に知られたる博士の子にて侍り。彼
私は、かつて佐国と申しあげた、人によく知られた官吏の子でございます

の父、世に侍りし時、深く花を興じて、折りにつけて是をもてあそ翫び侍りき。
愛好しました

且は、⑤其の心ざしをば詩にも作れり。『六十余国見れども、未だあかず。
日本国内の花を見ただけでも、まだ満足しない

他生にも、定めて花を愛する人たらん』④なんど作り置きて侍りつれば、
後の世 詩を作り

おのづから生死の会執にもや罷り成りけん、と疑はしく侍りし程に、ある
自分から永久に続く執着にとらわれてしまったのだろうか、と心配しましたところ

者の夢に、蝶に成つて侍ると見たる由を語り侍れば、罪深く覚えて、しか
罪深いことだと思われる

らば、若し、これらにもや迷ひ侍るらんとて、心の及ぶ程植ゑて侍るな
きつとこちらでも迷っていらっしやるだろうと

り。其れにとりて、唯花ばかりは猶あかず侍れば、あまつら蜜などを朝
そうしたこと、ただ花だけではやはり満足しないでしょうそこで甘い蜜などを

ごとにそそき侍る」とぞ語りける。
④（「発心集」より）

問一 傍線部⑦「前栽」の読みとして正しいものを選択肢から一つ選
さい。

②① ぜんさつ ② ぜんさい ③ せんざい

④ まえがき ⑤ まえおり

問二 傍線部①「ありがたく覚えて」の意味として適当なものを選択肢か
ら一つ選びなさい。

②③ ① 大変うれしく思われて

② すぐれているように思われて

③ もう二度と見られないと思つて

④ お礼を言いたくなつて

⑤ 不気味なものだと思つて

問三 傍線部㉔「思ふ心ありて植ゑて侍り」とあるが、どのような気持ちで花を植えたのか選択肢から一つ選びなさい。

- (24) ① 花をこよなく愛した父を思って花を植えた。
② 訪れた人に楽しんでもらおうと花を植えた。
③ 国内で一番有名な庭園を造ろうと花を植えた。
④ 詩を作るときの題材にするために花を植えた。
⑤ 自分の将来のことを心配して花を植えた。

問四 傍線部㉕「其の心ざしをば詩にも作れり」とあるが誰が作ったのか、選択肢から一つ選びなさい。

- (25) ① ある人 ② あるじ ③ 佐国 ④ 蝶 ⑤ 作者

問五 傍線部㉖「とぞ語りける」とあるが誰が語ったのか、選択肢から一つ選びなさい。

- (26) ① ある人 ② あるじ ③ 佐国 ④ 蝶 ⑤ 作者

問六 この文章は鴨長明「菴心集」の一部である。鴨長明の書いた作品を選択肢から一つ選びなさい。

- (27) ① 竹取物語 ② 平家物語 ③ 徒然草
④ 方丈記 ⑤ 奥の細道

〔四〕 次の語句の対義語（反対の意味の語）を選択肢から一つ選びなさい。

(28) 加入 ① 参加 ② 脱退 ③ 削除 ④ 分離 ⑤ 脱走

(29) 閉鎖 ① 広大 ② 無限 ③ 解放 ④ 実際 ⑤ 開放

(30) 勤勉 ① 休憩 ② 怠惰 ③ 無欲 ④ 活動 ⑤ 満足

(31) 具体 ① 全体 ② 総体 ③ 抽象 ④ 微細 ⑤ 印象

(32) 破壊 ① 貯蔵 ② 進化 ③ 想像 ④ 建設 ⑤ 追加

〔五〕 次の各文の傍線と同じ意味・用法で用いられているものを後から一つ選びなさい。

(33) これは私の自転車だ。

- ① 秋の海は風もなくおだやかだ。
② あまりの恐ろしさに思わず叫んだ。
③ 今日も朝から雲一つない晴天だ。
④ トラックが横転して道をふさいだ。
⑤ このあたりは昼間でも静かだ。

(34) 試合の後半で相手に一点取られる。

① 強い風に帽子を飛ばされる。

② 近所の子どもたちと遊んで疲れる。

③ これは寒い地方でよく見られる現象だ。

④ 重い荷物を運んで手がしびれる。

⑤ 社長は毎朝ジョギングをされるそうだ。

(35) 校長先生はおだやかに話をした。

① 姉は七時に家を出る。

② 優勝候補だったのに初戦で負けた。

③ 村の子どもたちは立派に成長した。

④ いつものように改札口で友達を待つ。

⑤ ただちに荷物をまとめて集合しなさい。

〔六〕 次の三つの語の□に共通する漢字を選択肢から一つ選びなさい。

(36) 検□ 捜□ □定

① 指 ② 試 ③ 合 ④ 法 ⑤ 査

(37) □彩 声□ 異□

① 物 ② 色 ③ 多 ④ 量 ⑤ 陶

(38) 作□ □者 □名

① 家 ② 学 ③ 曲 ④ 題 ⑤ 画

(39) □積 □談 斜□

① 面 ② 成 ③ 相 ④ 余 ⑤ 筆

(40) 進□ □席 早□

① 路 ② 末 ③ 期 ④ 退 ⑤ 級

